

全校集会 学校長の話（2026年1月20日）

- おはようございます。
- きょうは1月20日ですが、少し時計の針を戻して、3日前の話をさせてください。1月17日。この日が何の日か、皆さんは知っていますか。
- 今から31年前の1月17日、午前5時46分。阪神・淡路大震災が起きた日です。
- 当時、私も突然、激しい揺れに襲われました。あの時の恐怖、突き上げられるような衝撃は、今でも昨日のことのように思い出せます。私の同僚の先生の中には、この震災でご両親を亡くされた方もいます。だから私にとって、この震災は「昔の出来事」ではありません。
- 地震は、揺れた瞬間だけで終わりではありません。家具が倒れ、ガラスが割れ、火事が起きる。見慣れた家の中が、一瞬で「凶器」に変わる。だからこそ、「起きてから考える」のではなく、「普段から備えておく」ことが命を守ります。まずは、この震災の記憶を、決して風化させないでほしいと思います。
- さて、今日この話をしたのには、もう一つ理由があります。ここからが、今の皆さんにどうしても伝えておきたい本題です。震災のような非常事態になると、人は不安になります。情報が足りないからです。そんな時、昔も今も変わらず起きる怖いことがあります。それは、「不確かな情報」や「うわさ」が広まって、人を傷つけてしまうことです。
- あの震災の時も、デマや流言（りゅうげん。根拠のないうわさ・真偽不明の情報が世の中に広まること）が問題になりました。昨年の9月1日の全校集会でも、およそ100年前の関東大震災、また2年前の能登半島地震の際にも、デマが広まったことを話しました。
- そして今は言葉だけでなく、写真や動画が、一瞬で世界中に広がってしまう時代です。そこで今日は、皆さんの生活に直結する「SNS」について話をします。
- 最近、SNS上で、喧嘩や暴力、あるいはいじめの現場を撮影した動画が出回ることがあります。目にしたことがある人もいるかもしれません。
- いじめや暴力は、絶対に許されないことです。そしてもう一つ。「その場面を面白がって撮る、SNSに上げる」。これも同じくらい、許されない行為です。中には、「ひどい状況を世に知らせたい」「証拠として残したい」という正義感でカメラを向ける人がいるかもしれません。
- でも、想像してみてください。一度SNSに上がってしまった動画は、どうなるか。

- 被害を受けた人は、自分が傷つけられている場面を、知らない誰かに何百回、何千回と見られ続けることになります。学校や当事者同士で問題が解決しても、ネット上には動画が残り続ける。忘れてくとも、また誰かが面白がって掘り返す。これが「デジタルルタトゥー」です。一度刻まれたら、簡単には消せません。

- 「すぐに消したから大丈夫」「鍵垢だから大丈夫」そんなことはありません。誰かが保存し、コピーし、また別の場所に上げる。それがネットの怖さです。
「撮った人」「拡散した人」は、決して「助けた人」にはなれません。結果として、傷を広げる「加害者」の側に回ってしまうことになります。

- もし、目の前でいじめや暴力が起きていたら、スマホを向けるのではなく、大人を呼んでください。先生に知らせてください。それが一番確実な「助け」です。そして、もし動画が回ってきて、そこで止めてください。拡散しない。面白がってコメントもしない。

- 「広めることが正義」ではありません。本当に守りたいなら、「相談と連絡」です。スマホや SNS は、使い方次第で人を救う道具にもなれば、一生消えない傷を負わせる凶器にもなります。

- 北稜中が、明日も来なくなる学校するために、困っている仲間を正しい方法で守れる学校でありたい。今日の話、しっかりと心に留めておいてください。